



秋風が気持ちいい季節となりました。皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。10月は値上げの秋ともいわれているようですが、給食費の値上げの声はあまり聞こえず、なんとか頑張っ  
て凌ぐという施設が多いようです。新型コロナウイルス感染症は徐々に減少傾向にあり、感染対策の方  
針も変わってきていますが、インフルエンザとの同時流行も危惧されており、これまで通り感染防止対  
策はしっかり行い、体調管理を万全にして困難を乗り越えたいですね。

## 第63回 全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会

8月4日(木)・5日(金) 大分県大分市に於いてオンライン開催されました。

『栄養教諭を中核とした学校における食育の推進』～大分から全国へ うまい・楽しい・元気な食育～を主題に、青森県からは20名の参加がありました。うち、15名は当給食会の派遣事業により、参加費を助成しています。

1日目は全体会でした。文部科学省説明では、「学校における食育の推進と栄養教諭の役割」について、第4次食育推進基本計画において、地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数が令和3年度8.97回から令和7年度には12回以上に増加を目指している。また、学校給食の充実については、地場産物使用促進事業、みどりの食料システム戦略、学校給食費等の負担軽減等の事業を行っている。栄養教諭は、全国に令和3年度6752名配置され、全国で59.4%、青森県は49.5%である等の内容でした。

文化庁説明では、令和3年に文化財保護法が改訂になり、現在は、日本酒・焼酎・泡盛等のユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組みを行っている。また、全国各地において伝統があり近代まで残り、未来に残して行きたい「100年フード」事業を募り、昨年は131件認定された。(例として福島県のいかにんじん、一関・平泉のもち文化、千葉県の太巻き祭り寿し等) まだまだあるはずなので、様々な地域から名乗りをあげて欲しい等の内容でした。

基調講演は、神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科長 鈴木志保子氏による「栄養教諭の更なる活躍を目指した役割」の演題で、国民が初めて出会う栄養の専門家は栄養教諭・学校栄養職員であることが多いのに、給食のおばさんのイメージがまだまだ多く、自分たちと社会での認識にギャップがある。「栄養の力」を国民は実は理解していないので、もっと貢献できるはずである。それには、職務や業務を振り返り、給食管理の空き時間で食に関する指導を行うのではなく、ICTを積極的に活用し、実施すべき業務の標準化やマニュアル化が必要ではないだろうか。市町村に1名程度しかいない栄養教諭は、社会・保護者・学校内の教諭・調理員・関係(業)者・教育委員会・同職種(職域の異なるが管理栄養士)からどのようにみえているかを知り、専門職としての実力を強化して欲しい等の内容でした。

シンポジウムは「学校・家庭・地域に求められる栄養教諭」を主題に、コーディネーターの文科省学校給食調査官から5名のシンポジスト(文科省食育調査官・基調講演栄養学科長・栄養教諭・学校長・PTA)へ質問し、それぞれの立場の考えを述べる形式で進みました。

2日目は分科会で、8つの協議が行われました。第8分科会(衛生管理)では、青森大学薬学部薬学科 川村 仁教授が指導助言に当たられ、分科会のまとめとして最後に講義がありました。

来年度は、8月3日(木)・4日(金)に鳥取県で開催されます。会場での参加が出来るようになると良いですね。

### ◆お知らせ◆

●学校給食甲子園について、9月14日第一次審査結果発表があり、応募総数1249件のうち212件が選定されました。その中で青森県からは3件が選ばれています。さらに第二次審査が9月28日にあり47都道府県の代表が決まり、青森県は、新郷村立新郷小学校 和泉裕子栄養教諭が選ばれました。

今後は、第3次審査、第4次審査を経て12月10日・11日に全国12代表による決勝大会となります。

●「学校給食レシピコンテスト」は募集を締め切り、応募総数626通となりました。昨年度を超える多数のご応募をいただきました。ありがとうございます。これから一次審査(書類審査)の後、11月25日に二次審査で試作試食を行い、年内中に結果が決まる予定です。